

幼児の健康保育（十五）

お茶の水女子大学助教授
愛育研究所員

平井信義

病氣の看護をどうするか？

今回は先づ救急処置、即ち急病人の手あてについてお話ししましよう。

救急処置とは、ふいにけが人や病人が出たときで、医者が来るまでを、最もよい手当をして、病人を助け、病氣の経過によい影響を与えることであります。いつ起るか予想のつかない出来ごと——それに対処するのですから、第一にあわてないで処置がとれる様に。それにはどうしても平生から救急処置を必要とするけがや、病氣の症状や、手あての方法を、よく心得ていることです。

大きなできごと

出血のあるけが

かなりひどいがであるとき、それが動脈からの出血か静脈からか、判断する必要があります。鮮紅色で脈打つてびゆ

つびゆつと出でくれば動脈が切れた証拠。そのままにしておけば出血して死んでしまいます。直ちに止血法（後述）を行います。

暗赤色でじわじわ出でくるのは靜脈血、傷口に消毒ガーゼを当てゝ強くしばり、けがの部を高くあげておけば、やがて血は止まります。

けがに大切なことは消毒で、もしばい菌がついて繁殖するところ、なかなか癒りにくくなりますし、いろいろ醜形をのこします。けがの場所は殊にばい菌が繁殖しやすいのです。傷口をオキシフル、リバノールなどで洗い、マーキロクロームや沃度チンキをぬるのがよいでしょう。たゞし沃度チンキは粘膜のけがや、皮ふのうすいところのけがには向きません。傷が深いと、ばい菌は奥で繁殖し易く、しかもなかなか奥まで薬がとどかないから、消毒した刃物で傷口を充分開いておくことが大切です。

(二) 出血のないけが

うちみ、ねんざ、肉ばなれ、脱臼、骨折などは出血があります。

脱臼・骨折以外は湿布をするとよいのですが、一番大切なことは安静です。安静の伴わない治療は殆ど役に立たないものです。

骨折を起すと、骨折したところが動かせない程いたみ、またはれ上つて来て、顔まで青くなる程です。病院に運んでレントゲンをとつたり治療をうけたりしなければなりません。

運ぶときの注意が大切です。痛みがひどいから、それを出来るだけ楽にする方法で運ぶのですが、副本は必ずある。材料はステッキでも、木の枝でも、傘でも何でもよい。骨折した処の上・下両方の関節をしばつて動かない様にすること大切です。

うちみだけか、骨折があるか、ということでしばしば迷うことがあります、その診断にはレントゲンが第一ですから、どうもあやしいと思つたときには、必ずレントゲンをとられる様に……

(三) やけど

軽い場合は第一度火傷といつて、やけどをした皮ふが、少しほれて赤くなる程度。この時はオリーブ油か、硼酸軟膏がよいでしょう。アメリカの薬ですがタンニン酸の入つていてる

ものがありますが、非常に効果があります。

水疱が出来れば第二度です。これはアルコールで消毒した針で水疱を刺して、中の水分を出し、消毒薬と油をぬつておく。化膿すると面倒ですから、消毒には充分気をつけましょう。

第三度は、皮ふがこけて皮下組織が見えているもの。之は重症ですから、消毒薬と軟膏をぬつたガーゼをはつて、軽くからだの1/3以上やけどすると、生命を失う恐れがあります。

やけどは周囲のものゝ不注意といえましよう。重いと取返しのつかないきづを残しますから、返す返す、やけどをさせぬ様に細心の注意をはかりましょう。

(四) 意識を失つたとき

A 脳貧血 大勢集つて立つたまゝお話をきいていると、生あくびが出、気持が悪くなり、やがて意識がぼんやりしてそのまま倒れることがあります。すぐに空氣の流通のよい室に運び、頭を低くして仰向けに寝かせ、上衣やシャツのボタンをはずして、いきが樂につける様にして、医師の来るのを待ちましよう。そう心配はいらないのです。

B 脳充血 目が充血し、顔が赤くなり、めまい、耳鳴り、頭痛が起き、やがて倒れてしまします。

先ず頭を高くしてねかせ、衣服をゆるめる、頭を冷やすと共に手足を温ためる——この順序にします。

C 腦溢血 老人に多く、脳の血管が破裂るために起ります。突然の昏倒と昏睡、いびきをかくのが特長です。

頭を高くして仰向けにねかせ、衣服をゆるめる。一にも絶対安静、二にも絶対安静——この二つを守りましょう。

D 日射病 炎天下を長時間歩いたり、はげしい運動をした

ときに起ります。発汗がひどく、頭痛、めまい、呼吸困難となり、倒れてしまます。顔は暗赤色です。

涼しいところに寝かせ、衣服をぬがせ、頭に水をかけたり

扇であおぐ。呼吸が止つたら、人工呼吸をします。

E 热射病 この病気は体内に熱がこもることによつて起ります。むし暑い梅雨どきに、はげしい運動をしたり、高熱の作業場にいると起ります。

F 手あても症状も、日射病と同じです。

G てんかん とつぜん、意識を失つて倒れ、けいれんを起し、口からあわをふきながら、深いねむりに陥ります。顔色は最初は青白く、間もなくチアノーゼとなります。

ふだんからその傾向のあるものは、よく注意していないと、倒れたときに行かをするので危険です。又、けいれんのとき舌をかまない様に、口の中に木片をハンケチでくるんでかませましよう。

H 倒れるく せけんかして負けそだつたり、叱られたりう。

自分に不利な状況になると、すぐに卒倒する子供があります。神経症です。

C 心配ありません。余り騒がない様にして精神療法と環境の是正が大切です。

I H ショック からだに大きなかがをしたり、精神的打撃をうけたときに起ります。急に力が抜けてぐつたりし、顔が青白くなつて体は冷たくなり、呼吸は浅く脈搏は細くなります。

J 頭を低くして、あおむけにねかし、湯たんぽを入れて、からだをあたゝめましょう。

I 一酸化炭素の中毒 しめきつた室で炭火を起したり、ストーブをもやさと、この中毒に陥ります。顔が赤くなり、唇は鮮紅色。眠くなり、はじめは意識があつても腰が立たず、間もなく意識が不明となります。生命の危険があります。

K すぐ室の窓を開いて新鮮な空気を入れ、患者を戸外に連れ出して、人工呼吸をしましよう。

L J ひきつけ かい虫や発熱に伴つて起り、突然手足やからだをぶるわせ、歯をくいしばり、目をつり上げ、意識がなくなります。

M 空気の通う室をうす暗くしてねかせ頭を冷やす、浣腸する——そしてからだが冷えていれば、湯たんぽを入れましよう。

K溺死 水におぼれた人を救うには、まずのんだ水をはかせなければなりません。患者のみずおちが、救助者の立てひざの上にのる様にうつ伏せにねかせ、腰を高く、頭と胸を低くして、片方の手で、患者のひたいをさすえて、頭をうしろにそらせ、他の方の手で背中を圧迫します。

こうすると、胃や肺にあつた水が、だんだんと口から流れ出るからであります。そのあとは、すぐに上向きにねかせて、人工呼吸を始めます。

以上で意識不明と原因をいくつかあげてみました。原因によつて多少づゝ治療がちがいますから、よく症状に注意し、適切な方法をとりたいものです。

(五) かまれたとき

蛇や犬にかまれたとき、恐ろしいのはそれに毒、狂犬病原体があるかないかということです。その判定がすぐにはつかないだらうから、かまれた場所より心臓側をきつくしばり、蛇なら口で吸い出すかしづり出してから病院にいき、犬であれば予防注射を始めます。

ねずみは鼠咬症の恐れ、サルバルサンがきります。蜂や毛虫はアンモニアでよいでしよう。

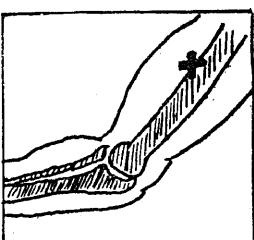
出血法その他

こゝに一括して、止血法、人工呼吸法、ほうたい法を書い

てみよう。

(一) 止血法 動脈出血のときに用います。水道が破裂したとき、そのもの栓をとることと同じです。前腕の出血であれば、上腕力こぶをにぎる様にして、骨にめがけてつよくにぎりしめます。上

脳の上部であれば、鎖骨の上のくぼ



んだ処を、頭ならば首、足であればもゝのつけね、——といつた具合に動脈を中の骨と指との間で圧迫するわけです。平生から自分の体で練習をしておくとよいでしょう。

(二) 人工呼吸法 救急処置の中でもつとも重大なものです。

呼吸がとまりそう、もうすでに止つている——というときに行つて、肺胞に空気を送り込み、再び器管の活動を取り戻そうというわけです。

患者を上向きで、腰の部分には枕になる様なものをあて、胸が高く、頭と肩が低くなる様にまづすぐにねかせ、腕は伸ばしたまゝ体の脇につけさせておきます。

舌がのどをふさいでいると、切角の人工呼吸も無駄にならぬから、舌をガーゼでくるんで口外に引き出さなければいけま

せん。

これらは、手取り早くすませて、すぐに人工呼吸にとりかかりましよう。いくつかの方法がありますが、一つだけ紹介いたします。

いきなり患児の大腿部にまたがり、両手の親指のつけ根をその人のみずおちに当て、他の指は肋骨の下部に当てる様にして、患児の胸廓を後上方に強く圧迫します。その際に術者は自分の全体重を、患児の胸にあてた両手口にかける様にして胸部を圧迫し、急に胸からはずします。圧迫の時間は、約二秒がよい、そして大人では一分間に一五〇～二〇〇回、子供ではそれより少し早く行けばよいのです。

この人工呼吸法は、自然呼吸が恢復するまで、忍耐強くつゞけることが大切です。四時間つゞけて生き返つたという例があります。したがつて一人で続けることは困難で、いく人かで交代してする様に用意しましょう。

人工呼吸をほどこしながら、他の人はからだを摩擦して血液の循環を助けるとか、或いはたき火をしてそばからあたふめてやることも考えましょう。

しかし、すでに顔が青白く、脈搏がなく、肛門が開き、瞳孔がひろがつてしまつて、光に反応しなくなつたものは、いくら人工呼吸を施しても無駄であります。

人工呼吸が上手にくと、次第に呼吸の数を増し、脈搏もふえ、顔色もよくなる、更に呼吸は正調になつていきます。

(三) ほうたいの巻き方 ほうたいの巻き方には二種類があります。

A ほうたい(巻軸帶)はさらし木綿で作られていますが、幅は使い道によつていろいろです。

ほうたいは固く巻けば血液の循環を悪くしますし痛く、ゆるいとすぐに落ちてしまうので、なかなかむづかしい。ほう帶のまき方には基本的な六種類があります。

- ①同じ部分を重ねて巻く法
- ②同じ太さの部分を少しづゝ離して巻く法
- ③荒くらせん状に巻く法
- ④太さの一様でない部分をまくにはゲートル式
- ⑤手や足を巻くときの方法
- ⑥ひざ・ひぢなど関節を巻く方法

B 三角布は一米平方の天竺木綿やかなぎんを対角線で二分して作ったものです。

之を用いる場合はいくつもあります。

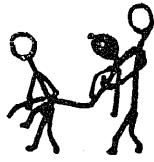
- ①頭を巻くとき
- ②顔のきづを巻くとき
- ③手を支えるとき――など。

之らはとにかく実際にほうたいを手にとつて何度も巻くことを練習しなければ上手にいきません。

(四) 運搬法 けがをした人や急病人は、思いがけない出来ごとに、精神的にも興奮しているから、十分に気をつけて、刺戟になつたり不安たいだかせる言葉をはかない様にしたいものであります。



(4)



(3)



(2)



(1)

(五)

救急箱 万一の場合にそなえて

どんなものを用意しておいたらよいか、次にあげておきます。

A 器具 体温計、浣腸器、吸入器、氷まくら、氷のう、たんぽ、湯たんぽ、かいろ、尿びん、便器、ピンセット、など。

B 外用薬 ヨードチンキ、マーキローム、オキシフル

ほう酸なんこう、ピック膏、チング油、アンモニヤ、ばんそうこう。

C 消毒薬 アルコール

D 繃帯 ほうたい、リント、ガーゼ、三角布、脱脂綿、など。

E 浣腸薬 石けん液、グリセリン、など。

[C] 小さな事故

日常たえず起る小さな事故についてかんたんにのべてみます。

一 目にものが入つたとき 小さな虫や砂ほこりがその原因、こすつてはいけません。こすると結膜炎を起したり、眼球を傷つけます。

静かにまぶたをとじてみると、自然にそれるものですが、ひつゝこいときは、上まぶたを返して、清潔な布でぬぐうと取れます。

また、洗面器に清水をみたして顔をつけ、まぶたをひらいたりとじたりしてもよいでしょう。

(二) 耳にものが入つたとき 決してピンセツトなどでつまみ出さないこと。はじめて更に奥に入れることがあります。虫などは油を流し込めば出て来ますし、強い光の方に耳の孔をかざしてもよいでしょう。不安心ならば医者にとつてもらいましょう。

(三) 鼻にものを入れてとれないとき ことに豆などですと、中でふやけてかさを増すのでとりにくくなります。医者に頬みましよう。

(四) のどにものゝさゝつたとき 見える場所ならば、ピンセツトでつまみとれます。その奥ですと、芋とかご飯をぐつとのみ込んで、それにひつかけてとつてしまふのです。さゝつたまゝにしておくと氣持が悪いし、又、化膿性の病氣を起すことがあります。

(五) 気管にものが入つたとき はげしい咳の発作が来ます。あとでころつとしていても、必ず耳鼻科へいつて鏡でみてもらい、或いは手術によりてとらなければならないことがあります。

(六) 熱が出たとき 必ず体温計で正確にはかり、熱の原因を探すために、医者に協力しましょう。みだりに下熱剤、ズル

ブオン剤を使うことはいけません。熱はあくまでも症候です。熱を下げてみても、もとの病氣がよくなつていなければ心配です。熱が高いからといつて重い病氣ではありません。あわてないことです。

(七) 腹痛があるとき 腹痛も沢山の病氣の徵候にすぎませんから、すぐに痛み止めを使うことは危険であります。原因をさがす方法をばかしてしまふからで、そのためにはしづら手おくれを招きます。

しばしば原因によつて治療がちがつて来ます。同じ腹痛でも盲腸炎（虫垂炎）のときは下剤はいけませんが、腸炎のときは用うことがあります。自分たちではなかなか判断がつかないから、医者が来るまで、大便、吐物を保存したいのが場所やその満干などをよく観察していましょう。

(八) 嘔吐したとき 嘔吐も胃の病氣だけではないことをよく知つていましょう。脳膜や脳に変化があつても、腹膜に変化があつても、膀胱炎など、風邪の一種でも起ります。吐いたものを用意しておきますから原因は医師にまかせましょう。

(九) はな血 仰向けにねかせ、鼻に栓をすると共に、鼻底骨のところを冷します。安静が大切です。

その他、体温脈や呼吸のはかり方、吸入や流腸をするときの注意、水枕と氷嚢のあて方、などがありますが、すでにござりと存じていますから省略いたしましょ。